

東包括目標	アクションプラン(行動計画)
<p>① 「誰かとつながる」 本人・家族の生き方を大切にしながら、意思決定を支える</p>	<p>相談窓口の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康フェスタ未実施地域での実施に繋げる（神足、東台他） フェスタ未来場者全員に校区包括のチラシを配布する 法人広報誌掲載実施（具体的な相談内容記載） <p>個別相談機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度利用支援、適切な虐待対応、認知症初期集中支援チームや専門職との連携等、意思決定支援を丁寧に行う
<p>② 「私ができることを考える」 健康づくり・介護予防に関心をもつ人を増やす</p>	<p>介護予防の意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防サロンにてミニ講座実施など取り組みをすすめる サロンや通所等集いの場に行けない場合も、DVD、介護予防カレンダー、リーフレット等の活用により、運動や介護予防の提案をする ケアプラン点検に参加し、自立支援について意見交換、予防マネジメントに反映させる 関係機関と連携し、難聴、法律相談など相談会を実施する 本人、家族におでかけあんしん見守り事業登録を促す
<p>③ 「自分らしい生活を送る」 個人・地域・関係機関が連携する</p>	<p>地域ケア個別会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーからの相談等について会議を開催し、個別課題の解決、関係機関とのネットワークづくり、地域課題発見に気づく機会を持つ <p>他機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員定例会（北一、中、神足地区）へ出席することで、地域での気になることを把握する 医療介護関係機関の会議に参加することで、連携を図る
<p>④ 「地域で暮らす」 出会う機会・つながる人を増やす</p>	<p>生活支援ニーズの抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域ケアマネジメント会議(月1回)にて個別課題を共有し、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員に繋げる 地域でのサロン活動等に協力することで、地域の状況把握を行う

令和5年度実施内容	評価	課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> 健康フェスタ：未実施地域への相談窓口の周知方法について検討中。 七ツ池下地域でからだ測定会を9月実施予定で調整中 法人広報誌6月号に包括が高齢者の相談窓口であること掲載 成年後見制度利用促進支援：市長申し立てにむけ1件対応中 無料法律相談などを活用しながら、成年後見制度の周知を行っている。 虐待対応：新規ケース13件、早期解決に向け関係機関と虐待対応ケース会議を開催し情報共有を行う。 認知症初期集中支援チーム：1件依頼、情報共有を行いながら適切なタイミングで介入できるよう連携を図る。 10月に徘徊模擬訓練実施するため、関係機関と調整中 経済困窮者に対し、病院や行政とも積極的に連携を図り、利用できる制度を活用しながら、本人の意思決定支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康フェスタの開催がないため、代替え事業の実施に向け、民生委員や自治会と積極的に関わりを持ち、包括の啓発を行えた。 感染対策を行いながら、個別訪問実施。丁寧に聞き取りを行うことで個別のニーズに沿った対応ができた。 個別課題に合わせて、行政や権利擁護などと情報共有し、連携を図ることで、丁寧な意思決定支援が行えた。 出張講座の依頼が増加しており、包括の相談窓口の周知が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の地域で「包括が何をするとおこなのか説明を聞いてもわからない」という声があり、包括の啓発や相談窓口の周知方法について、再度検討する必要がある。今年度は出張講座や整形相談会などを利用して包括が身近な相談機関であることを認識してもらえような啓発を行う。 虐待や認知症などの対応は、継続して丁寧なかかわりを持っていく
<ul style="list-style-type: none"> 出張講座：計8回実施94名参加 5/23 馬場サロン：セラバンドを使った体操 6/1 ときわ会：介護予防の体操 6/23 すこやか会：介護保険について 7/5 京都信用金庫：健康で過ごすためにできること 7/6 ときわ会：熱中症について 7/21 花にしき：介護保険について 7/24 民生児童委員：介護保険について 7/25 馬場サロン：消費者被害にあわないために 京都式ケアプラン点検（介護予防）研修参加：7/13 無料法律相談：対面での相談再開：計5回9名利用 耳のことなんでも相談会：障がい福祉課と共働で6/20実施 おでかけ安心見守り事業：1名案内（内登録1名） 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を実施しながら、地域のサロンへの参加や出張講座を行った。積極的に地域の方と交流し、包括からも講座の提案をしながら、介護予防への意識が高まるように関わりを持つことができた。 出張講座の依頼に対応できるように、講座の案内に載せてあるものに関しては資料の作成を行った。また他の包括とも連携をとり、より良い講座の実施に向けて情報の共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> アフターコロナの状態、地域活動が活発化し、出張講座の依頼が増加している。コロナ禍で人と関わる機会が減り、認知症が進行したり、筋力低下されている方があり、今後も積極的に地域と関わりを持つことが重要。今年度はできるだけ、地域に出向き、講座や体操などを通じて意識を高めることを主として取り組みたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア個別会議：2件実施。 ケアマネジャーからの相談に対し、一緒にケース検討や同行訪問、会議の開催等実施し個別課題の解決に向けての支援を行った。 民生児童委員定例会に7回参加。気になる高齢者や地域のことを相談しあえる関係性づくりを実施 在宅療養手帳委員会等に参加 退院連携のために、病院訪問やオンラインでの情報共有などを積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師や家族、関係機関が集まることで、情報共有ができ、個別課題の解決にむけて支援の方向性の統一を行うことができた 民生児童委員定例会に参加することで、顔の見える関係性ができ、個別ケースの相談や昨年度依頼がなかった高齢者の会から出張講座の依頼を受けることが出来た。 地域ケア個別会議を開催することで、関係機関で個別課題を共有し、支援方針の統一と本人を支援するためのネットワークづくりができた。その結果として、ケアマネジャーの支援にも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーからの相談、虐待ケース、対応困難ケースなどについては、課題分析や役割分担を丁寧に実施していき、相談しやすい関係性づくりを継続していく。 ケアマネジャー不足が続いており、支援困難ケースや虐待ケースを市外の居宅介護支援事業所に依頼することが増えている。複合課題を抱えたケースも増加しており、ケアマネジャー・一事業所で抱え込むのではなく、様々な関係者で世帯全体に関われるよう必要に応じて地域ケア個別会議を開催する。
<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアマネジメント会議：4回開催、延べ 127件（うち新規ケース計74件）生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進委員と情報の共有を行う。 生活支援コーディネーターと連携しながら、新田カフェ、七ツ池下仲よしワイワイ広場に参加。 認知症の方で、介護保険サービスにつながらない方に対し、認知症地域推進委員と情報共有し、連携を図り認知症対応型カフェにつないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 世帯困窮や認知症の進行などの課題を共有することができ、介護保険サービス以外での支援方法の検討などを行う機会を持つことができた。 馬場サロンの支援は継続。 生活支援コーディネーターと共に、七ツ池下仲よしワイワイ広場に参加することで、自治会や民生委員とのコミュニケーションが増え、「参加してほしい人が来ない」という課題を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 七ツ池下仲よしワイワイ広場に関して、生活支援コーディネーターと情報共有しながら「参加してほしい人が来ない」という課題に対して、何ができるのか、色々な方法を検討し、実施する。その後、見守り・安否確認をテーマに地域ケア推進会議につなげていきたい。